IBULIVE いぶりぶ

いぶり+Live

医療法人 社団 いぶり腎泌尿器科クリニック 広報誌

泌尿器科・血液透析

創刊号

季刊誌

待望の広報誌創刊!

皆様とともに歩むクリニックを目指して!

地域に根ざし・地域に信頼されるクリニック実現へ向けて…。

開院してあっという間に二年九ヶ月が経った、というのが今の実感です。当初から早くに広報誌を発行しようと思っていたのですが、そこまでなかなか手が回らず、今に至ってしまいました。現時点でのいわば自己評価ですが、自ら出向き地域に根付いて診療するという目標は、いろいろな医療及び福祉に関わる施設から快くご協力を頂き、また訪問看護ステーション「あおぞら」との連携もあって、ほぼ満足の結果と思います。さらに通常の泌尿器科疾患に関しては、治療を完結できる実力と設備・環境を整えるという目標についても着実に達成しつつあると考えています。一方で外来診療の待ち時間短縮の件など、改善すべき課題は山ほど残っています。これからも全職員一丸となり、地域に根ざし、地域に信頼されるクリニックを目指して精一杯努力致します。

院長 坪 俊輔

坪院長の健康講座

おやっ!と思ったら専門医にご相談を

○…膀胱（ぼうこう）の働きにはオシッコをする排尿とオシッコをためる畜尿のふたつがあり、殆どの時間が畜尿に使われています。そして、この畜尿の障害、例えばオシッコが間に合わなくて漏れそうになる尿意切迫、間に合わなくて漏れてしまう切迫性尿失禁、また、飛んだり跳ねたり、お腹に力が入った時などに漏れる腹圧性尿失禁が注目されています。

○…尿意切迫は前立腺肥大症の初期症状は別として、明らかな病気がなくても起きる事がわかっており、過活動膀胱とよばれ生活の質を大きく損なう原因となっています。また、日本人女性の六割くらいが尿漏れを経験していることがわかっており、尿失禁はけっして珍しい状態ではありません。

○…尿意切迫・尿失禁を経験されたら一度専門医に相談してみてはいかがでしょうか。第一に原因となる病気がないかどうか確認する事は大事なことです。また、基礎疾患がなければ、過活動膀胱や尿失禁には薬物療法を始めとして有効な治療法があります。特に抗コリン剤という薬が良く効くようです。尿漏れなどでお悩みの方は一度専門医を訪ねてみてはいかがでしょうか。

アンケートQ&A 皆様からお寄せ頂きましたご意見への回答です。

●予約しても予約時間に診療してくれない。
●予約をしても待っている時間が長すぎる。
●予約をやめた方が良い。※以上待ち時間に関するご意見が多数寄せられました。

【回答(対応)です】
大変ご迷惑をおかけしております。緩和のため予約票の様式を変更致しました。患者様により診察時間が変わりますので、予約時間に30分の幅を設けました。(○時○分～○時○分) ※なお、診察の前には検尿などの検査があります。検査には30分ほどを要しますのでご承知おきください。

●病棟の談話室にもテレビがあると良いと思います。
●2Fデイコーナー休憩所に小型テレビをお願いします。

【回答です】
病棟は休んでいる(睡眠)患者様に配慮しBGMも流しておりませんので、ご理解をお願いします。なお、テレビは各ベッドに無料で備えております。また、どうしてもご覧になりたい場合は、1Fロビーのビデオコーナーのテレビをご利用ください。

お礼の手紙も頂きました

去る2月8日には、急にご高診をお願いし、大変ご迷惑をお掛けしました。南国から軽装で雪祭りなどを見学、その上食べ物にも不注意があったものと思われ反省している次第でございます。

お蔭様で痛みもすっかりなくなり、翌日の日程も無事終えることが出来ました。遠く北の大地でいただいた先生はじめ、皆様の温かいお心を忘れることなく、自らを戒めて参る所存でございます。看護師長様には特によろしくお伝え下さいませ。

和歌山市　T・A様のお礼状です。

ことわざに「至れり尽くせり」という言葉がありますが、当院の看護師さんは、正にことわざ通りです。感謝しております。

山下町　W・M様のお礼状です。

今後も皆様の貴重なご意見をお聞かせください。

こんにちは！訪問看護ステーションあおぞらです。

訪問看護って？そんな疑問にお答えします。

当ステーションは平成17年9月に開設しました。現在スタッフは看護師3名で、夜間・休日も緊急に訪問できる体制をとっています。開設してまず感じたことは、訪問看護がなかなか知られていない事でした。「食事を作ってくれるのですか」「受診に付いていってほしい」「訪問看護って何をしてくれるのですか」等の電話を頂き、お話を聞いていると、ご自宅で色々困っている方、不安な方が多い事を改めて痛感しました。また、「いぶり腎泌尿器科クリニックにかかっていないとだめなのか」とも聞かれますが、他の病院に受診されている方でも全く構いません。

そこで今回は、訪問看護のサービス内容を紹介させて頂きます。

- 血圧・体温等の測定、病状の観察と看護を含めた健康状態のチェック
- 食事・水分などの栄養状態の観察と指導
- 内服薬や他の薬剤など、使用方法の指導、管理
- 清拭・入浴介助・洗髪・足浴・口腔ケアなど清潔の看護
- 日常生活動作の訓練
- 医療機器や器具などの操作援助、留置カテーテルの管理
- 在宅での看取りの支援
- ご家族などへの介護支援・相談

医療機関・主治医と連携を取りながら、在宅療養が安心して受けられるよう支援したいと思います。また、今後は他のサービス機関との連携、他の訪問看護ステーションとも連携し、訪問看護を地域の人達に知ってもらえるよう働きかけていきたいと考えています。

あおぞら 訪問看護ステーション

訪問日・訪問時間

■訪問日	月曜日～金曜日	8:30～17:30
	土曜日	8:30～12:30
■休業日	日曜日・祝日	年末年始(12/31～1/3)

伊達市梅本町2番地15 FAX0142-21-1401
TEL 0142-21-7070

■発行：いぶりぶ発行委員会
伊達市梅本町2番地15いぶり腎泌尿器科クリニック内 TEL0142-21-1400 FAX0142-21-1401
●発行責任者：横井　浩

■発行/平成19年4月10日■4月・7月・10月・1月の年4回発行
※本誌掲載の写真、記事の無断転用は固くお断り致します。
●企画・制作：室蘭民報社 <企画デザイン部>

西胆振管内有数の人工透析装置40台を完備！

最新の医療機器を備えたクリニックです。

手術室

人工透析室

透析装置数40台と、西胆振管内では最大級の規模です。最新式の患者監視装置など、機能性、操作性の高い機器を完備しています。また、臨床工学技師３人を含む２０人の看護スタッフが対応し、充実した治療環境を整えています。さらに可動式のテレビ受像機、男女別のロッカールームなど、充実の設備ときめ細かな配慮が行き届いています。

病　室（写真は2人部屋）

病室は４人部屋が３室、２人部屋が３室、特別室１室の全７室１９床です。各室トイレ・冷蔵庫・テレビなどを完備し、全室が車椅子対応となっております。

ＣＴ室（コンピュータ断層撮影装置）

造影剤を使った腹部の断層写真などに使われる装置です。通常のレントゲン写真ではできない、立体写真（3D）が撮影できます。また、いろいろな角度から血管の状態などの情報を得ることができます。デジタル化されているため、電子カルテとして迅速・効率的な管理が可能です。

ＥＳＷＬ室（体外衝撃波結石破砕装置）

尿路結石症の治療に際して、手術をすることなく石を破砕します。体外から患部に特殊な衝撃波を当てるだけで、入院を要さずに、治療したその日に帰ることもできます。

ＸＴＶ室（Ｘ線画像診断）

Ｘ線照射で透視画像を見ながら、胸部や腹部の写真を撮影する最新の装置を備えています。これは、造影剤の流れを瞬時に確認しながら撮影できるため、より確度の高い診断につながります。また、通常のＸ線撮影装置も備えています。

column コラム 待合室 No. 1

子供たちに伝えたい命の尊さ

いわゆる「いじめ」によると見られる自殺が相次いだ２００６年暮れ。短絡的に自らの命を絶つ連鎖反応が大きな社会問題となり、解決の糸口すら見出せない現状がある。一体どういうことなのか？止むに止まれぬ理由が本当にあったのか…。

昭和20年夏、旧満州の国境付近、参戦したロシア軍の戦車部隊が国境を越え攻め込んできた。迎え撃つ日本軍は塹壕（ざんごう）を掘り、その中に隠れ待ち伏せ、棒の先に付けた地雷を差し出す自虐的作戦だった。「この戦（いくさ）に勝ち目はない、みんな逃げろ！逃げて日本へ生きて帰れ！」。最前線にいた小隊長が下した命令は、敵前逃

医療法人 社団　泌尿器科・血液透析

いぶり腎泌尿器科クリニック

心の通う医療を追い求めて

スタッフ紹介

<取材/室蘭民報社>

竹内　豊副院長

患者さんのステータスを尊重、信頼される診療を

伊達に来て九年目「伊達は気候が温暖で雪も少なく最高！」と屈託なく笑う竹内医師。札幌出身の39歳独身、花嫁募集中の身。大学時代はラグビー部に所属、試合が終われば敵も味方もないノーサイド精神の魅力に心酔していた。

「最近は色々な情報が氾濫、患者さんとの良い関係を築くのも大変な時代です」と、心から信頼される医師を目指す。何気ない会話にも注意し、患者さんが疑心暗鬼に陥らないよう努めているという、繊細な神経の持ち主でもある。

「とにかく、何事も精一杯やることが信頼につながると思います」と、最後はスポーツマンらしい一面をのぞかせる。待望の院内広報誌発行に当たっては、双方向交流のプラス材料と喜ぶ。また、自らの花嫁募集に関しても、効果があるのでは、と密かに期待を抱いているようだった。

今　貴恵子透析看護師長

患者さん一人ひとりとの対話を大切に

看護師経験二十五年の今看護師長、女性に対し失礼だが、もう大ベテランの域。話し方や何気ない仕草が安心感を与えてくれるから不思議だ。旧産炭地の赤平市出身、幼い頃は人見知りだったが、「病気で悩む人の力になりたい」と看護師の道に入った。

内気だった少女も、いまでは何より患者さんとの対話が大好きに。「この間来たときいなかったから、心配したよ」と患者さんに優しい声を掛けられ感激、逆に元気づけられることも度々という。

「透析は週三回、特に高齢の患者さんは大変で家族の方々の負担も大きい」と気遣い、通院する本人はもちろん、付き添う家族へも優しい配慮を忘れない。透析は一日四十人から八十人と多い。「一日何十人いても、一人ひとりとの対話を大切にしたい」と、常に看護の原点を忘れないことを心がけている。

鈴木　淑子訪問看護ステーションあおぞら所長

訪問看護サービスの周知に力

「退院した後、大丈夫かなとの思いから、在宅看護に興味を持ちました。いざ実際にたずさわってみると、訪問看護の必要性を痛感しています」と、現場最前線で活躍する看護師ならではの発言。鈴木所長を含め、現在三人のスタッフが伊達市・洞爺湖町を主なエリアに業務に当たっている。

訪問看護は一般にあまり知られていないのが実情。「高齢者の介護サービスと混同している方も結構多いです」と、サービス自体の周知を徹底する必要性を訴える。実際には介護、医療の両保険が適用され、医師からの指示書に基づき訪問し、利用年齢などに制限はない。

「利用者からは、もっと早くから利用したかったの声が多いです」。自ら出向く訪問看護は、地域との関わりが重要、「積極的にPR、利用してもらい、利用者さんの負担を少しでも軽減させたい」と意欲的に動き回っている。

河野久仁美病棟看護師長

患者さんを中心に考えた看護の実践

第一印象は元気が良い人、もっと分かりやすく言うと良く喋る河野看護師長。根っからの明るさは、病気で滅入ってしまう気持ちを忘れさせてしまいそうだ。「看護は心のケアが大切と思います」と、看護に対する心構えにも屈託がない。

十九床の入院ベッドを十六人のスタッフで二十四時間カバー、高齢社会を反映し、入院患者も高齢化の傾向にあるという。「高齢者は容態の急変など看護度が高く、日々の注意力が大切です」。ほぼ、ワンツーマンに近い体制を維持、連日の業務に当たる。

入院は生活の環境が大きく変化、不安を感じるのは当たり前だ。「小さなことから大きなことまで、あいまいにすることなく対応し、不安を取り除いてあげたい」。自身が看護の基本と掲げる、心のケアを実践するため、患者さんを中心に据えた看護に情熱を燃やし、明るい笑顔を振りまいている。

本文と写真に関係はありません

亡だった。

話の語り部で、命令を下した隊長は亡き父である。生前、大戦のことはあまり話したがらなかった父が、唯一伝えてくれた体験談であった。命の尊さ、生きることの勇気を伝えたかったのだろうか。そんな父が晩年に孫を抱きながらポツリと呟いた。「子供は親が愛情を注げば、絶対に曲がった道へは進まない」。

日本は豊かな時代を謳歌している。物質的にも、経済的にも足らないものは何もない。その一方ですさんだ出来事も多い。子供が被害者となる事件、家族関係の崩壊による事件、わが子の虐待等々、例えに事欠かないほどだ。家族愛、隣人愛、なにより人間愛。本能であるはず愛の欠如こそ、いまの社会を物語っているように思える。そして愛は優しさだけではなく、厳しさ、あるいは責任を伴うことをいま一度思い起こし、次代へ伝えたい。